

市庭古墳

全長 253m・後円部直径 147m・前方部幅 164mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。墳丘には葺石と埴輪の存在が認められる。墳丘の周囲には2重の盾形周濠と堤がめぐる。平城宮造営に伴い、後円部を残して古墳の大半が削平されている。

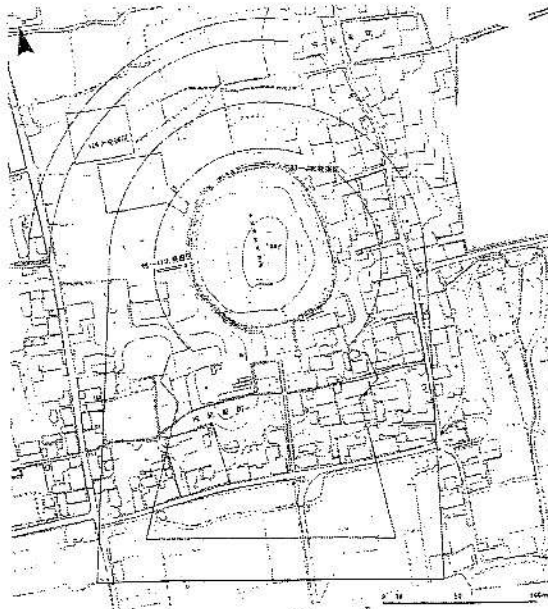
内濠は、後円部西北側で幅 45m前後、深さ 4.1mである。

内堤は、後円部西北側で上面幅約 24mである。内外両斜面に葺石が認められる。上面の内斜面肩部から約 4mの位置で円筒埴輪列がめぐり、埴輪の間隔は心々間で約 1.4mである。

外濠は、後円部西北側で幅約 18m・深さ 0.7mである。内濠と比べてかなり浅く、地形が低い南側では削平されて残っていない。

なお、外堤の存在は未確認である。

出土埴輪はⅢ期前半の様相を示し、築造時期は5世紀前葉と推定できる。

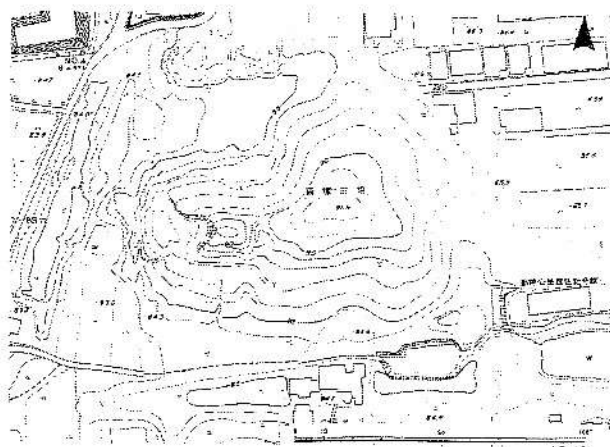


市庭古墳

猫塚古墳

全長約 120mの前方後円墳と推定されている。主軸は東西方向で、前方部を西へ向ける。墳丘には葺石と埴輪が認められる。奈良時代の松林苑造営に伴い、墳丘が大きく改変されているらしく、現状では墳丘形態の復元も難しい。古墳の西側には、松林苑跡の築地塀が残る。

1953年に前方部墳頂部が土砂採取によって破壊され、緊急調査が行われている。割石で覆われた特異な粘土槨が検出され、石釧 21点、鉄刀 8点、鉄剣 22点が出土した。これらの副葬品などから、4世紀後～末葉の築造とみられる。



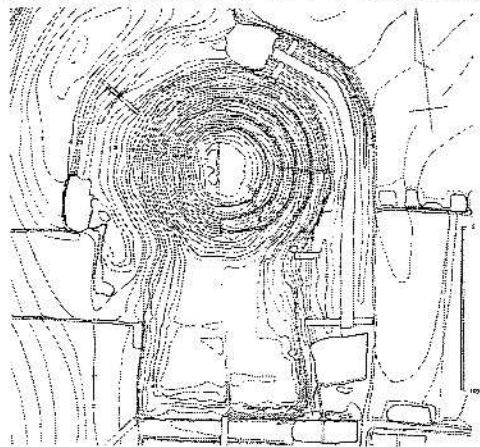
猫塚古墳

塩塚古墳

全長 105m・後円部直径 70m・前方部幅 55mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。墳丘には葺石が認められず、埴輪の出土も少量である。墳丘の周囲には、前方部南側を除いて盾形周濠と外堤がめぐる。奈良時代の松林苑造営に伴い、前方部を広く低平に造成しており、建物基壇として利用されていた可能性が想定されている。

後円部の埋葬施設は、南北方向の粘土槨である。全長 6.8mの粘土槨内に、全長 6.35m・幅 0.63～0.65mの木棺を納める。盗掘によって中央部が大きく破壊されていたが、棺内北端から蕨手刀子 4点・鉄斧 15点・鉄曲刃鎌 9点がまとまって出土し、棺外西側には鉄剣 2点が配置されてあった。

副葬品の内容からみて、5世紀前葉の築造と推定できる。



塩塚古墳